

服部義幸

ばんえい競馬調教師
はっとり よしゆき



Yoshiyuki Hattori



世界にひとつの競馬。 その誇りを胸に、 調教師は駆け続ける。

北海道の馬文化

もっと近くで見たい
手作りの
エキサイトゾーン

200メートルの直線コースに、大小2つの障害がある。ゲートが開き、馬たちが第1障害を一気に駆け上がる。障害を越えたところで、騎手は手綱をしばらく、馬にひと息入れさせる。高さ1.7メートルも及ぶ第2障害をいかに越えるかが勝負の分かれ目になるからだ。そんな駆け引きが行われているコースのすぐ横で、観客は馬とともに歩き、止まり、声をかけ、こぶしを固く握る。帯広競馬場にコースから約10メートルの至近距離に造られた「エキサイトゾーン」。発案から造作まで先頭に立って行ったのが、服部義幸調教師だ。ばんえい競馬の調教師と騎手により結成されている調騎会の会長でもある。

「速さを競う平地競走が目まで追う競馬だとすれば、ばんえい競馬は身体で追う競馬。そのことを実感してもらいたくして作っただんだ。お金はないから調教師、騎手、厩務員、組合の職員もみんな協力してね」

そのアイデアを思いついたのは、ナイトレースで有名な大井競馬